（開催報告）第 18 回関東 MIST 研究会

MIST 学会　会員各位

第 18 回関東 MIST 研究会を 3 月 9 日、JP タワー　ホール＆カンファレンスにて開催いたしました。

今回は「北関東に MIST の裾野を拡げる」を裏テーマに据え、冒頭に北関東セミナーと称して群馬・栃木・茨城 3 県の代表選手にそれぞれ得意分野をミニレクチャーしていただきました。群馬県・太田記念病院の石原慎一先生からはパワー・ツールによるスクリュー刺入はかえって安全という目から鱗の話、栃木県・獨協医大の高田知史先生からは MRI とエコーのフュージョンで未来が拓けるという話、茨城県・筑波大学の三浦紘世先生からはご自身の長年の歩行解析研究を AI で更にバージョンアップといった話をしていただき、MIST 後進地域と危惧していた北関東も着実に未来に向かっていることが示されました。

時間の関係で開会式や開会の挨拶は抜きで、代わりに Opening address として「能登半島の現状　日本赤十字社・救護班報告」をいたしました。2 月に派遣された能登半島・珠洲市の壊滅的な街の惨状、いまだに水が出ず自由に排泄すらできない状況、医療アクセスが限られており避難者の健康維持がギリギリな現状を報告して会場をシーンとさせてしまいました。MIST と全く関係ない話でしたが、できる限り多くの人に聞いてもらいたい、医療者なら尚更聞いてもらいたいと帰還後常々思っておりましたので、個人的野望は達成されました。

一般演題は 9 題の応募をいただき、頚椎から骨盤、先天性疾患から外傷まで多岐にわたるテーマが話され、活発な討論がかわされました。世話人による投票の結果、国際医療福祉大学成田病院・船尾陽生先生の「成人期まで遺残した先天性筋性斜頸の手術治療成績－上下端切腱術と下端切腱術の比較－」がベストプレゼンテーション賞に選ばれました。また、多くの質疑で会場を盛り上げた東京医科歯科大学・山田賢太郎先生がベストディスカッサント賞に選ばれました。おめでとうございます。

特別講演は豪華 3 本立て、まず獨協医大名誉教授・野原裕先生に「温故知新：脊椎インストゥルメンテーション登場前後の脊椎外科から」をご講演いただきました。その時どきで使える道具を使って骨癒合も得てきたし矯正もしてきた、道具がないからできないは甘えでしかないと思い知らされました。ひとつひとつの症例を家族背景含めて事細かにお話くださり、患者・家族に背を向けない態度が信頼を生み、難手術に次々と身を委ねてくれたことが野原先生を巨人たらしめたと、今更ながら理解しました。

2 本目は赤十字の大先輩でもある神戸赤十字病院・伊藤康夫先生に「高エネルギー外傷による脊椎・骨盤損傷に対する治療戦略－骨粗鬆症を伴う脊椎・骨盤外傷も含めて」をご講演いただきました。ひどい外傷が次から次、あれよあれよという間に整復されていく様を、紙芝居のようにうっとりと見させていただきました。ついこの間まで回旋は制御できないと仰っていた骨盤骨折もいつの間にかちゃっかり解決策を見出しておられ、常にアップデートされる姿勢に尊敬の念を新たにしました。

トリは今回をもって関東 MIST 研究会世話人を卒業される苑田会・星野雅洋先生に「非脊椎専門医へ伝えたい－骨粗鬆症性椎体骨折の診断と早期外科的治療－」をご講演いただきました。たかが椎体骨

折と軽んじていないか、地域を巻き込んでリーダーシップをとって行くんだぞと、むしろ脊椎専門医が聞いてハッとさせられるメッセージでした。卒業といっても日本 MIST の役職は継続され、関東 MIST にも顔を出していただけるようですので、これからもご指導いただきたいと思います。

今回は東京駅隣接という立地の良さもあり、年度末の土曜という気忙しい折にも関わらず 63 名の先生がたにご参加いただきました。今までほとんど参加いただけていなかった群馬・栃木・茨城の先生がたも多く参加いただけて、当番世話人としての使命を果たせたと感じています。最後になりますが、多大なサポートをいただき、貴重な土曜日に丸一日お付き合いくださった協賛企業の皆さま、ありがとうございました。

次回第 19 回関東 MIST 研究会は埼玉県済生会川口総合病院・新井嘉容先生が当番世話人として 2024 年 10 月 5 日に開催されます。皆さんと再びお会いできることを心待ちにしております。

第 18 回関東 MIST 研究会・当番世話人
那須赤十字病院・整形外科部長　竹内大作